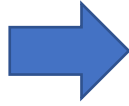


担架の使い方

こういう時に使います! 2人以上(4~8人推奨)

原則は傷病者の応急手当をした後に搬送しますが…

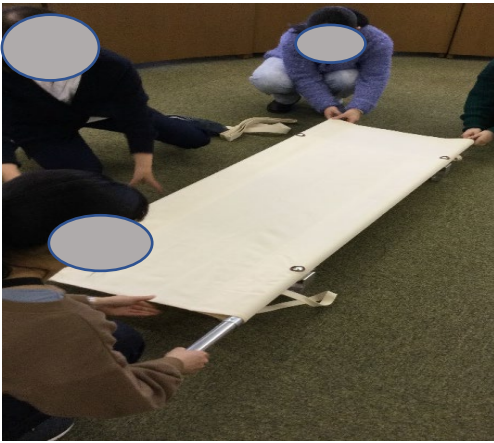
- いる場所が危険な場合
- 応急手当の実施に支障がある場合



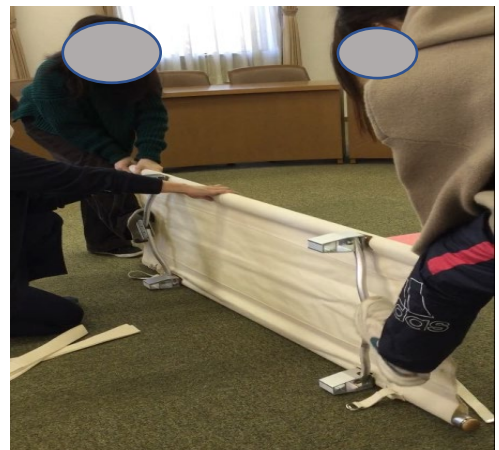
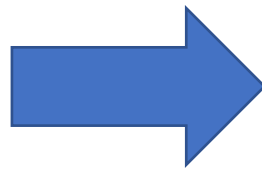
傷病者を安全な場所に移動させる場合にも使用します

※傷病者の意識がなくても搬送できる

【準備】



ひもを外し、持ち手をカチッと音がなるまで伸ばして固定する

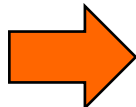


最後までしっかりロックをする
⚠ 指や手を挟まないように注意

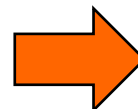
【乗せ方】



担架側に1名、反対側に3名の救助者を配置



担架と反対側の3名の救助者が傷病者の背中に手を入れ、立てた片膝に乗せる

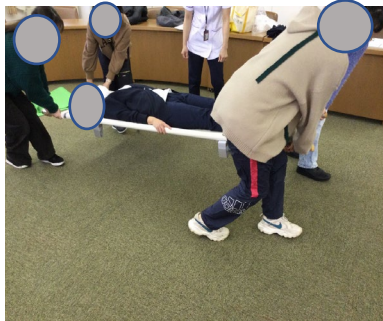


担架側の1名の救助者が担架を近くに寄せて、傷病者を下ろす

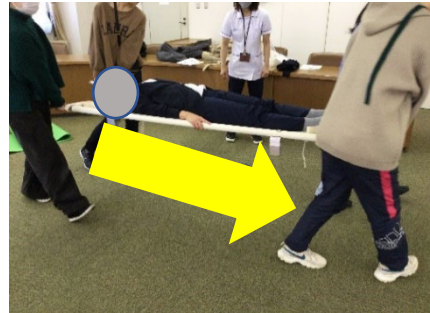
【搬送方法】

・背が高い救助者は頭側に配置する

(1) 4箇所の持ち手に救助者を1名ずつ搬送する場合、足側の人は進行方向を向いて腰を下ろす



(2) 頭側の人の合図
(「1, 2, 3など」)で持ち上げる



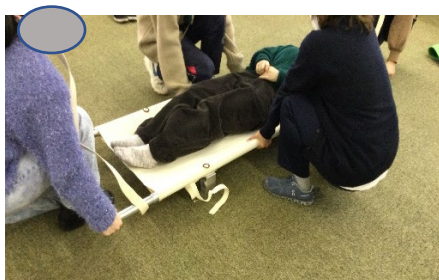
(3) 平らなところでは、足側を進行方向にする

☆搬送時の揺れを少なくするためには、担架側の足から踏み出すと良い

【持ち上げ方】



(1) 頭側の人は、肩ひもを首にかける
(肩ひもは持ち手よりも傷病者側に入れておくこと)



(2) 救助者は全員、傷病者側の方を向いて腰を下ろす



(3) 頭側の人の合図(「1, 2, 3など」)で持ち上げる

【搬送開始時】



☆搬送時の揺れを少なくするためには、頭側以外の人と同じ足から踏み出すと良い

- (1) 両側の人を持ち上げながら、足側の人（進行方向に向かって先頭の人）の方へ近づく
- (2) 足側の人を体の向きを進行方向に入れ替える
- (3) 両側の人を頭側に戻す

【上り坂や階段（上り）での搬送】



札幌市地域防災指導員用研修資料(担架での搬送方法)より

- ・ 急な上り坂や、階段の上りの際は頭側を進行方向にする
- ・ 頭側を進行方向に進む場合は、各持ち手に救助者がつくこと
- ・ 足側の救助者は、できるだけ水平になるように持ち上げる

【搬送上の注意点】

- ・ 地面から持ち上げるときは、掛け声をかけてゆっくり持ち上げる
- ・ 平らなところでは足側を進行方向にする
- ・ 階段の上り(下り)は頭側(足側)が進行方向にする
- ・ 背が高い救助者は頭側に配置する
- ・ 頭が下がると不安感が増したり、状態が悪化したりする可能性あり

作成：総合支援センターキャンパス自立支援室
学生サポートスタッフ AR メンバー（2024年2月）